

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 24 年度農業農村工学会賞の決定について	72
○平成 25 年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10 月 31 日	72
○サマーセミナー 2012 参加者募集!	73
○第 36 回水の週間「ウォーターフェア'12 東京」農業用水の展示出展について	73
○平成 24 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い 申込締切 7 月 20 日	74
○平成 24 年度「研究グループ」の助成金募集について(再) 申請締切 6 月 29 日	74
○平成 24 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再) 申請締切 9 月 14 日	75
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	75
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	76
○CPD 利用料の改定と学会員の割引について(再)	76
○CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を!(再)	76
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	77
○論文集の電子投稿・査読システムの運用を開始しました(再)	77
○平成 25 年の表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	78
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	78
○International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 国際会議の開催について (第 2 報) 11 月 27~29 日開催	79
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	80
○平成 24 年度東北支部総会・第 55 回東北支部研究発表会ならびに第 45 回東北支部研修会・第 35 回地方講習 会の開催について(第 1 報) 発表申込締切 8 月 31 日予定	81
○第 63 回関東支部大会の開催について(第 1 報) 講演申込締切 7 月 31 日	81
○第 69 回京都支部研究発表会の開催について(第 2 報) 発表申込締切 6 月 30 日	81
○農村計画研究部会第 34 回現地研修集会の開催について(第 2 報) 申込締切 7 月 27 日	83
○平成 24 年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について 発表申込締切 7 月 13 日	84
○農地保全研究部会第 33 回研究集会の開催について(第 1 報) 11 月 20 日開催	85
農業農村工学会論文集第 279 号内容紹介	86
学会記事	88

第 80 巻第 7 号予定

小特集：東日本大震災からの復興に向けて(仮)

- ①農地の除塩技術の構築：加藤 徹ほか
- ②水利施設の復旧と改修のための技術的課題：毛利栄征ほか
- ③津波による沿岸域の冠水予測技術：桐 博英ほか
- ④農地の放射性物質汚染の新知見：塩沢 昌ほか
- ⑤放射性物質で汚染した農地の除染技術：中 達雄ほか
- ⑥農業用水の水質管理：白谷栄作ほか
- ⑦緊急時の新規水源開発：細谷裕士ほか
- ⑧土地利用調整の制度設計：元杉昭男
- ⑨農村コミュニティの再興：莊林幹太郎
- ⑩合意形成とワークショップ：福興徳文ほか
- ⑪県別調査団報告(総括)

技術レポート

- 北海道支部：東地区における護岸ブロックの再利用：藤井浩司ほか
 東北支部：芝野頭首工起伏ゲートの更新計画事例：館岡剛正
 関東支部：表面被覆工(コンクリート補修工)の施工：江川春彦ほか
 京都支部：地域の力を活かした遊休農地の再生・活用：福永健治ほか
 中国四国支部：揚水機場の高圧受電電気設備の機能診断技術と健全度評価の検討：酒井雅史ほか
 九州支部：暗渠排水被覆材に河川敷の伐採竹を利用した施工事例：串野栄次ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成24年9月6, 7日	農村計画研究部会	第34回現地研修集会 ⓑ	悠久の歴史を紡ぎ未来に繋ぐ農山漁村—美ら島・美ら海を巡る宝物語—	那覇市ほか	80巻4,6号
平成24年9月18~20日	大会運営委員会	平成24年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	札幌市	79巻12号 80巻1,3号
平成24年10月17日	関東支部	第63回支部大会講演会・講習会 ⓑ	—	さいたま市	80巻6号
平成24年10月25, 26日	東北支部	平成24年度総会・第55回研究発表会・第45回研修会・第35回地方講習会 ⓑ	—	秋田市	80巻6号
平成24年11月1, 2日	中国四国支部	第67回支部講演会・第36回地方講習会 ⓑ	—	岡山市	80巻5号
平成24年11月8日	資源循環研究部会	平成24年度研究発表会 ⓑ	資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指して	東京都	80巻6号
平成24年11月20, 21日	農地保全研究部会	第33回研究集会 ⓑ	東日本大震災に伴う津波被害・対策とその後(仮)	仙台市	80巻6号
平成24年11月21日	京都支部	第69回研究発表会 ⓑ	—	新潟市	80巻4,6号

平成24年度農業農村工学会賞の決定について

平成24年度の農業農村工学会賞は、平成24年5月10日(木)の理事会において、学術賞1件、研究奨励賞4件、優秀論文賞1件、優秀技術賞3件、優秀技術リポート賞6件、著作賞1件、教育賞1件、地域貢献賞1件、国際貢献賞1件、

功労賞3件、上野賞2件、沢田賞1件、が決定いたしました。授与式は、来る9月18日(火)に北海道大学高等教育推進機構大講堂で行われます。なお、詳細は本号巻頭平成24年度農業農村工学会大会講演会のページをご参照下さい。

平成25年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成25年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成24年10月末日です。推薦書様式および、授賞規程は学会HPをご参照下さい。

平成25年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象範囲および期間	平成19年10月から平成24年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成21年10月から平成24年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成21年10月から平成24年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成23年10月から平成24年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。	平成22年10月から平成24年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成19年10月から平成24年9月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート
受賞候補者	個人			個人または組織・団体		個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行いもしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者

賞の対象範囲 および期間	平成14年10月から平成24年9月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成14年10月から平成24年9月までの業績を対象とする。	平成22年10月から平成24年9月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成19年10月から平成24年9月までの業績を対象とする。	平成19年10月から平成24年9月までの活動を対象とする。	平成19年10月から平成24年9月までの活動を対象とする。	平成22年10月から平成24年9月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成24年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成24年10月末日							
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

サマーセミナー 2012 参加者募集！

2012年度テーマ「寒冷地農業の克服から見る農業土木の今・未来」

こんにちは。農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。今年も農業農村工学を学ぶ学生を対象に、サマーセミナーを開催いたします。このサマーセミナーは今回で15回目となる学生・院生自主企画のセミナーで、さまざまな大学から多くの学生が参加しています。

今回はテーマに「寒冷地農業の克服から見る農業土木の今・未来」を掲げています。寒冷地における農業土木をキーワードに、農業農村工学の歴史を学び、実際に広大な農地を見学した上で、これからの農業土木のあり方を考えていきます。異なる大学、多様な研究テーマでありながらも、同じ農業農村工学を学ぶ学生として、一緒に議論してみませんか？

皆様のご参加をお待ちしております！

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

・有光加理（東京大学大学院農学生命科学研究科）

- ・及川 拓（北海道大学大学院農学院）
- ・櫻木宏明（北海道大学大学院農学院）
- ・周藤将司（鳥取大学大学院連合農学研究科）
- ・本田裕理（九州大学大学院生物資源環境科学府）

2. 日時 2012年9月21日（金）～22日（土）

3. 開催地（予定）

北海道札幌市周辺（研修地、宿泊地等は現在検討中）

4. 参加費用（宿泊費等） 12,000円～13,000円程度

5. 詳細・参加申込み

申込みは以下のホームページからお願いします。詳細を随時公開予定です。

URL：<https://summersemina2012.hotcom-web.com/>

6. 問合せ

E-mail：summer_seminar2012@yahoo.co.jp

第36回水の週間「ウォーターフェア'12東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催「ウォーターフェア'12東京」は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委

員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 虹の下水道館（有明水再生センター5階）

期 日 平成24年8月3日（金）～5日（日）（予定）

平成 24 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い

技術者教育認定に関する検討委員会

JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、本年も農学関係学協会が共同で研修会を開催いたします。多くの皆様の参加を期待しております。奮ってご参加下さい。

なお、本研修会は JABEE 公認で、研修会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日 時 平成 24 年 7 月 28 日 (土) 9:30~17:30
(懇親会 17:30~)
2. 場 所 東京大学弥生講堂
(東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内)
3. 主 催 農業農村工学会, 農学会, 森林・自然環境技術者教育会, 日本生物工学会
4. 参加費 5,000 円 (当日, 現金で支払い)
5. 懇親会費 2,000 円 (当日, 現金で支払い)
6. 申込方法
農業農村工学会ホームページ掲載の申込書および審査員登録票に必要事項を記入し, 下記の担当学会に E-mail で申し込んで下さい。
7. 申込先
農業農村工学会事務局 花塚 宛

E-mail : hanatsuka@jsidre.or.jp

8. 申込締切 平成 24 年 7 月 20 日 (金)
9. プログラム (案)
 - 8:30~ 受付開始
 - 9:25~ 9:30 オリエンテーリング
 - 9:30~ 9:40 開会の挨拶
 - 9:40~10:30 JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明
 - 10:30~11:20 JABEE 認定基準の解説
 - 11:20~12:00 社会的背景, 技術士制度との関係について (昼食)
 - 13:00~13:50 認定・審査の手順と方法, 審査手引きの解説
 - 13:50~14:40 自己点検書の作成について
 - 14:40~15:30 実地審査について (休憩)
 - 15:30~16:10 生物工学関連分野の特徴
 - 16:10~16:40 大学院認定の動きと外国の事情
 - 16:40~17:30 質疑応答
 - 17:30~ 意見交換 (懇親会)

平成 24 年度「研究グループ」の助成金募集について (再)

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし, 下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度, 3 件以内です。

本年度の申請締切は, 平成 24 年 6 月 29 日 (金) ですので, 助成金を希望される方は期限までに, 所定の様式 (学会ホームページ参照) で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関, 行政, 大学, 民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上, 「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお, 申請者の資格は, 後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき, その可否を認定し, 学会長に報告する。
3. 配布: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し, 「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし, その配布は原則として 1 年とする。

4. 助成対象: 申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち, しかもその研究分野が現在立ち遅れており, それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし, 構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者 (本学会員) をおき, 構成員は原則として 3 名以上, それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は, 助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告: 助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し, 研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり, 農業農村工学

会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上が
り1~2ページに収まるようにまとめること。

注2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委
員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成24年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成24年9月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成24年9月14日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成23年度までに61件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

CPD 利用料の改定と学会員の割引について（再）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、平成 24 年度から、CPD 個人登録者の CPD 利用料を次のように 1,500 円増額させていただき 4,000 円となりました。ただし、そのうち農業農村工学会員である方は改定後の利用料から 1,500 円を割り引いた額の 2,500 円となります。（新規登録時は従来どおり登録料 1,000 円がかかります。）それに伴い、当機構の運営要領を下記のように改定させていただきました。

【技術者継続教育機構運営要領】第 221 回農業農村工学会理事会（平成 23 年 12 月 13 日）において改定。平成 24 年 4 月 1 日施行。

（CPD 利用料等）

第 6 条 機構の登録者は、次の CPD 利用料を納めなければならない。

一 CPD 個人登録者 年額 4,000 円

ただし学会員である者は 2,500 円

また、30 人以上の所属機関において、一括納入する場合の

利用料は、下表のとおりです。

CPD 利用料は 6 月 1 日時点の登録区分に従ってその額を確定いたしますので、農業農村工学会への入会を検討されている方は、5 月までに入会手続きされることをお勧めいたします。（ただし、機構と学会を「同時入会（登録）」された場合は、6 月 1 日以降であっても割引額を適用いたします。）

登録区分	平成 24 年度からの利用料	
	CPD 登録者 (非学会員)	CPD 登録者 (学会員)
個人・29 人以下の団体	4,000 円	2,500 円
30 人以上の団体	3,900 円	2,400 円
80 人以上の団体	3,800 円	2,300 円
130 人以上の団体	3,700 円	2,200 円
180 人以上の団体	3,600 円	2,100 円
230 人以上の団体	3,500 円	2,000 円

*同一所属内でも、学会員である CPD 登録者と、学会員でない CPD 登録者で、利用料が 2 通りになる場合があります。

CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！（再）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、急激な登録者数の増加による研鑽記録審査量の増加や、CPD を取り巻く社会の利用状況の変化に対応すべく、研鑽記録の提出について「Web システム」を、平成 24 年 2 月下旬より導入しました。

Web システムを利用して研鑽記録をご提出いただければ早急に CPD ポイント取得結果を確認することができ、当該年度内であっても証明書の発行が可能となりますので、是非とも Web システムをご利用下さいませようお願いいたします。

なお、当面は従来の Excel 形式での「継続教育記録ノート」の提出も受け付けますが、その場合の審査結果は従来どおり「8 月送付」となります。

詳細については、技術者継続教育機構のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご覧下さい。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、技術者継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、CPD 単位取得を在宅で手軽に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回 80% 以上の解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。是非、通信教育へご解答をお寄せ下さい。

なお、3 月号で「今後は Web 画面上のみで受付」と周知いたしましたが、2013 年 (Vol.81)2 月号の解答受付分までは従来の Excel ファイルでの解答も受け付けさせていただきます。

1. 解答資格

解答ができる資格としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会および技術者継続教育機構の CPD 個人登録をされていない方は、まず農業農村工学会のホームページから入会申込書をダウンロードし入会手続きを行い、農業農村工学会員番号を取得された後、技術者継続教育機構の Web 画面上から新規登録手続きを行って下さい。

2. 出題方法

出題は 3 カ月前に発行された学会誌の報文等の事実的な内容から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲載します。問題は択一式で、毎回 10 問を出題します。

3. Web 利用登録と解答方法

Web で解答をするためには Web 画面上で「Web 利用登録」をして下さい。(Web 画面上で解答ができるようになるまでには、登録に約 1 週間程度を要します。)「Web 利用登録」をされた約 1 週間後に、Web 画面上で解答画面にアクセスし、正解と思う番号を入力し、送信をして下さい。

4. 解答期限

解答期限は「問題掲載月号の翌月末日まで」です。期限を過ぎた解答の受け付けは一切できませんので、十分ご注意下さい。なお、解答期限内であれば、Web 画面上で何度でも解答を訂正し送信することができますが、その場合は解答期限日の直前に送信をした解答が有効となります。

5. CPD ポイントの採点と取得結果の照会可能時期、およびポイント集計年度区分

採点は解答期限日を過ぎた後に行い、全問正解で 2 CPD ポイント、7~9 問正解で 1.5 CPD ポイントを自動的に登録いたします。取得した CPD ポイントは解答期限日の約 1 カ月後に Web 画面上で確認することができ、CPD 取得証明書の発行が可能です。なお、通信教育における当該年度分 CPD 取得ポイントとは、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月に出題された問題への解答に該当します。

*解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

論文集の電子投稿・査読システムの運用を開始しました (再)

論文集編集委員会

論文集編集委員会では、電子投稿・査読システムを平成 24 年 3 月 26 日より運用開始しました。

利用システムは現在世界的に広く普及している ASP (Application Service Provider) の Editorial Manager を利用します。Editorial Manager はすでに水文・水資源学会や地盤工学会で導入されているものと同じのもので日本でも実績があります。

本システムの運用開始後、①新規投稿は電子投稿・査読システムでの運用となります。②すでに投稿され審査中のものについては、従来どおりでの運用となります。

「投稿の手引き」(学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/> に掲載)を熟読の上、ご投稿下さい。

投稿先 URL

<http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/index.html>

平成 25 年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 25 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 81 巻（平成 25 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切

春季 平成 24 年 6 月 30 日
夏季 平成 24 年 9 月 30 日

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 81 巻第 1 号で採作品と掲載号を発表し、採作品は平成 25 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採作品の使用権は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 80, 81 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
80 巻 7 号 東日本大震災関連	公募なし
8 号 アフリカにおける農業・農村整備の現状と課題-TICAD Iからの20年-(仮)	公募終了
9 号 水土・環境観測の最前線(仮)	公募終了
10 号 いま、大学教育に求められていること(仮)	公募なし
11 号 農業農村整備事業は千差万別、津々浦々(仮)	6月25日
12 号 世界の水議論と農業用水(仮)	7月25日
81 巻 1 号 大規模経営体の育成と農業農村整備事業(仮)	8月24日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

80 巻 11 号テーマ「農業農村整備事業は千差万別、津々浦々」(仮)

わが国は、4つの島と約4,000の島嶼が北東から南西に弧状に連なり、その長さが約3,000kmに及ぶ列島で、山地、火山地および丘陵が国土面積の大半を占め、山地に挟まれるようにして小規模な平地を形成する台地・段丘および低地が分布しております。また、国土の大部分は温帯気候に属しておりますが、国土が南北に細長いため、亜熱帯から亜寒帯にまたがっております。

農地・農業用水などの食料供給基盤の保全管理と整備を担う農業農村整備事業は、このようなさまざまな地形や気候、さら

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

に歴史や風土などそれぞれの地域で営まれてきた農業や暮らしを踏まえ実施していることから、その取組み内容は全国津々浦々、千差万別です。

そこで、本特集では、先人達が築き上げた水利施設の更新を行っている事業、地域の伝統・文化を生かして農村振興や都市・農村交流を図っている事業、地域独自の土地改良や新たな担い手育成のための取組みなど、地域色豊かな農業農村整備事業に関する報文を行政分野、研究分野、技術分野などから幅広く募集します。

80 巻 12 号テーマ「世界の水議論と農業用水」(仮)

平成24年3月12日(月)～17日(土)に第6回世界水フォーラム(WWF6)がフランス・マルセイユで開催されました。WWF6では「Time for Solution(水問題を解決する時)」をテーマに掲げ、各国の公的機関や民間企業、国際機関などから関係者が集まり、世界の水問題とその対策について議論されました。

現在、急激な人口増加を背景に水需要が増大しており、限られた水資源をどのように配分・利用するのが課題となっております。また、気候変動による渇水、洪水などの発生も懸念され

ており、その影響の予測と対策が求められます。農業は多量の水資源を利用する分野であり、今後の食料増産の必要性を考慮すれば、水資源の確保、保全に向けた取組みは喫緊の課題と言えます。

本小特集では、「世界の水議論と農業用水」と題し、世界的な水議論の動向について学会員の皆様に情報を提供します。また、農業のための水資源の開発、効率の利用、水利調整などの取組みについての報文を募集します。

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)
国際会議の開催について(第2報)

国際水田・水環境工学会(PAWEES)の国際会議は、2012年11月27～29日、タイ国バンコク郊外ノンサプリのIrrigation Development Institute, Royal Irrigation Departmentで開催されます。詳しくはホームページ(<http://pawees.net/>)をご覧ください。

1. 論文の提出

アブストラクト提出 2012年6月10日
受領通知 2012年6月30日
フルペーパー提出 2012年9月30日

2. 日程

11月27日 受付

開会式
PAWEES 2012 International Conference
11月28日 PAWEES 2012 International Conference
Award Ceremony and Annual Meeting
11月29日 Technical Tour

3. 登録料 US\$ 200
4. 宿泊
Richmond Stylish Convention HotelまたはWaterman Homeに特別料金で宿泊可能です。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 9, 12月)

購読料: 正会員 12,000円

学生会員 (院生含む) 8,500円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: (社) 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2011年6月末にVol.10, No.2が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価を得ております。

また、世界13カ国からEditor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用

下さい。

編集事務局: Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL: +81-92-642-2909 FAX: +81-92-642-2914

E-mail: yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Management Editor : Dr. Yoshiyuki SHINOGI
The Graduate School of Bioresource and Environmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO
Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Dept. of Bioenvironmental Systems, Engineering National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

出版社 : Springer-Japan 社

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

平成 24 年度東北支部総会・第 55 回東北支部研究発表会ならびに
第 45 回東北支部研修会・第 35 回地方講習会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 24 年 10 月 25 日 (木), 26 日 (金)
2. 会 場 秋田ビューホテル
〒010-0001 秋田市中通 2-6-1
☎018-832-1111 FAX 018-833-6957
3. 研究発表の申込み・原稿受付期間
平成 24 年 8 月 10 日 (金) ~ 8 月 31 日 (金) 【締切厳守】を
予定しています。
昨年より早まりますのでご注意ください。

4. 問合せ先
〒010-0444 南秋田郡大潟村字南 2-2
秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科
永吉武志 または 近藤 正 まで
☎0185-45-3915 (永吉) 0185-45-3918 (近藤)
FAX 0185-45-2377
E-mail : tnaga@akita-pu.ac.jp
5. その他
詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

第 63 回関東支部大会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時
(1) 支部大会講演会, 講習会 (シンポジウム), 情報交換会
平成 24 年 10 月 17 日 (水) 時間未定
(2) 現地研修会 未定
2. 場 所
(1) 支部大会講演会, 講習会 (シンポジウム), 情報交換会
埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
大宮ソニックシティ
(2) 現地研修会 未定
3. 参加申込み
(1) 支部大会講演会, 講習会 (シンポジウム), 情報交換会,
現地研修会
上記申込締切日 : 平成 24 年 8 月 31 日 (金)

- (2) 講演申込み
申込締切日 : 平成 24 年 7 月 31 日 (火)
原稿締切日 : 平成 24 年 8 月 31 日 (金)
講演申込み希望者は, 「講演者所属および氏名」, 「演
題 (仮題でも可)」, 「講演要旨 (200 字以内)」を明記
のうえ, 下記事務局まで申し込み下さい。
4. 問合せ先 (事務局)
埼玉県農林部農村整備課 担当 : 大岡, 林
〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1
☎048-830-4347 FAX 048-830-4840
E-mail : a4330-01@pref.saitama.lg.jp
5. その他
詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

第 69 回京都支部研究発表会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会
(1) 日時 平成 24 年 11 月 21 日 (水)
10 : 00 ~ 17 : 00 (受付開始 9 : 00 ~)
(2) 会場 (開会式 ~ 講演会 ~ 分科会)
新潟ユニゾンプラザ

- (新潟県新潟市中央区上所 2-2-2)
- (3) 会場までのアクセス
JR 新潟駅万代口「新潟駅前ターミナルのりば
12 番線」よりバス乗車
①水島町経由美咲合同庁舎ゆき

- 「ユニゾンプラザ前」下車 徒歩1分
 ②水島町・県庁前經由西部営業所ゆき
 「ユニゾンプラザ前」下車 徒歩1分
 ③その他12番線発の郊外線もすべて利用可。
 「ユニゾンプラザ前」下車 徒歩1分

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成24年11月21日(水) 18:00~20:00
 (2) 会場 新潟県土地改良会館 (HOTEL こしひかり)
 (新潟市中央区川岸町 1-38-3)

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成24年11月22日(木)
 9:00 JR新潟駅南口発
 16:00 JR新潟駅南口着

(2) 内容

「新潟平野を巡る南周りコース」

①新川河口排水機場 (新潟市西区)

毎秒240t(口径4,200mmのポンプ6台)の排水能力を持つ大規模な排水機場です。施設の老朽化に伴い、ポンプ設備などの更新工事を国営農業水利事業で施工している現場を見学します。

②西蒲原排水中央管理所 (新潟市西蒲区)

東西15km,南北35kmの西蒲原地域に配置されている68カ所の排水施設を一元的にリアルタイムで管理し、地域の洪水被害防止に重要な役割を果たしています。遠方監視の状況や遠隔操作のデモンストレーションを視察します。

③新潟ふるさと村 (新潟市西区)

米・魚・酒など新潟自慢の味覚と特産品が一堂に展示・販売されているバザール館、新潟の歴史・文化・最新観光情報の拠点となるアピール館などがあり、豊かな自然と緑に囲まれた道の駅です。昼食休憩を兼ねてゆっくりと見学して下さい。

④芦沼館, 亀田郷土地改良区 (新潟市中央区)

かつて、「地図にない湖」とも言われた亀田郷(東西12km,南北11km)を緑の大地に導いた土地改良事業の歴史を紹介します。乾田化前後の記録映像をご覧くださいとともに、当時の農具・民具を見学します。また現在、取り組まれている事業(環境用水, 鋼矢板の補修技術など)についても紹介します。

「新潟平野を巡る北周りコース」

①内の倉発電所 (新発田市)

県営かんがい排水事業により造成されたダム放流水を利用した小水力発電を行っている施設です。同事業によって造成された施設のなかでわが国最大の施設を見学します。

②ビュー福島潟 (新潟市北区)

福島潟は、砂丘によりさえぎられた潟湖で、昭和40年代に国営干拓建設事業が行われ、現在の大きさ193haと

なりました。日本最大のオオヒシクイの越冬地で、2mの葉をつけるオニバスの自生の北限として貴重な動植物が生息する福島潟を360°の展望回廊からご覧いただけます。

③新潟ふるさと村 (新潟市西区) ※南周りコースと同様

④芦沼館, 亀田郷土地改良区 (新潟市中央区) ※南周りコースと同様

4. 研究発表申込み

研究発表者は、投稿原稿に先立ち、6月末日までに、①表題(仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、③連名者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、④希望発表部門(水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレスを簡条書きにしたメールを下記の発表申込先・三重大学岡島宛にご送付下さい(件名を「発表申込み」として下さい)。メールアドレスをお持ちでない場合はCD(txtファイル)をご郵送下さい。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時35歳以下の会員(学生会員も含む)によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の受賞基準に該当する方(35歳以下の連名者を含む)は、必ず申込書に年齢を記入して下さい。

5. 投稿原稿申込み

(1) 原稿投稿先および期限

研究発表の申込みをされた方は、下記の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿2部に投稿票2部(様式は、http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/H24_kenkyuhappyou/index.htmよりダウンロードして下さい)を添えて、平成24年7月末日までに、下記・三重大学岡島宛にご郵送下さい。またメールにて発表原稿(PDFもしくはWordファイル)と投稿票(Excelファイル)をご送信下さい。

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学生物資源学部共生環境学科 岡島賢治

☎059-231-9586

E-mail: okajima@bio.mie-u.ac.jp

(2) 投稿要領

- ・投稿発表者は、農業農村工学会会員とします。
- ・投稿要領および原稿の書式については、農業農村工学会ホームページ内の「発表申込票(投稿票)と投稿要領」(http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/H24_kenkyuhappyou/index.htm)を参照して下さい。枚数は図面を含めて2枚とします。発表時間は12分(質疑応答は3分)です。原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows7,ソフトはPowerPoint

2010)を準備します。データはCD-R, USB メモリーでご用意下さい。(OHP, ビデオプロジェクタを希望する場合はご連絡下さい。)

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加申込みについて (http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/H24_kenkyuhappyou/index.htm) にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書に必要事項を記載の上、メール、FAX または郵送にて下記申込先まで送付して頂きますようお願いいたします。

(2) 申込期限 平成 24 年 8 月 31 日 (金)

(3) 参加費等 研究発表会 4,500 円
 情報交換会 4,500 円
 現地研修会 5,000 円 (昼食代含む)

(ア) 昼食

会場周辺では昼食をとる場所が少ないですので、弁当を1,000円/個(税込・お茶付)で事前予約にて受け付けています。ご希望の方は参加申込書にてお申し込み下さい。

(イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、近畿日本ツーリスト(株)新潟支店より9月下旬以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「7. 申込先・問合せ先、振込先」の振込先へ10月12日(金)までにお振り込み下さい。振込手数料については振込人負担をお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、近畿日本ツーリスト(株)新潟支店を通じて行います。ご要望の方は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加案内の宿泊斡旋施設一覧表の中からホテルをお選びいただき、該当するホテ

ルの記号を参加申込書に記載して下さい。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

(5) その他

情報交換会会場(新潟県土地改良会館(HOTELこしひかり))も割引料金での宿泊が可能です。直接、下記までお申し込み下さい。(当日現金払いとなります。)
 新潟県土地改良会館(新潟市中央区川岸町1-38-3)
 ☎025-265-1111(代表) FAX 025-265-1111

7. 申込先・問合せ先、振込先

(1) 申込先・問合せ先

近畿日本(キンキニッポン)ツーリスト(株)
 新潟支店

「第69回農業農村工学会京都支部研究発表会係」

〒950-0088 新潟県新潟市中央区万代4-4-27

NBF 新潟テレコムビル5F

E-mail: niigata-mice@or.knt.co.jp

☎025-255-1122 FAX 025-247-1211

営業時間: 平日 9:30~17:45 (土日祝日休業)

* 宿泊、昼食弁当などの変更・取消しにつきましては、お送りする確認書に変更事項を記入の上、FAXにてご連絡をお願いいたします。

(2) 振込先

三菱東京UFJ銀行 千代田支店

普通口座 2569297

口座名 近畿日本(キンキニッポン)ツーリスト株式会社

8. 事務局

新潟県農地部農地管理課内

第69回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 大嶋、渋谷、田中

☎025-280-5349(直通) FAX 025-285-3787

E-mail: shibuya.yoshihiro@pref.niigata.lg.jp

tanaka.kiyoto@pref.niigata.lg.jp

農村計画研究部会第34回現地研修集会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



主催: 農村計画研究部会

協賛: 農村計画学会, 沖縄県農村振興技術連盟(予定)

後援: 琉球大学, 沖縄総合事務局, 沖縄県, 水土里ネットおきなわ, 放送大学沖縄学習センター(予定)

1. 日程 平成24年9月6日(木)~7日(金)

2. 会場 沖縄県県立博物館 講義室(研修集会)および沖縄本島または宮古島(現地検討会)

3. テーマ 悠久の歴史を紡ぎ未来に繋ぐ農山漁村
 —美ら島・美ら海を巡る宝物語—

4. 趣旨

本土復帰40年を迎え、海洋王国として栄えた琉球の歴史・文化・風土に触れながら、自然豊かなわが国唯一の亜熱帯島嶼部農業と地下ダムを活用した畑地灌漑による農業の発展について紹介するとともに、沖縄県における農山漁村活性化の先進事例や農業農村整備に係る取組みと学術研究成果を学ぶことにより、参加者の知見を広げ、今後の農村計画に反映することを期待して企画を行うものである。

5. プログラム

- (1) 研修集会 平成 24 年 9 月 6 日 (木) 13:00~17:30
 基調講演 放送大学沖縄学習センター所長
 琉球大学名誉教授 宜保清一
 報 告 沖縄県農林水産部村づくり計画課長
 前田幹男
 事例報告 1 宮古土地改良区総務課長 末広美千八
 事例報告 2 ぐすくべ GT.LLC さるかかの会事務局長
 松原敬子
 事例報告 3 読谷村役場
 情勢報告 農林水産省
 ※研修集会終了後、交流会を予定しています。
 (18:00~20:00)

- (2) 現地検討会 平成 24 年 9 月 7 日 (金)
 ①沖縄本島コース 8:30~17:00
 読谷中部地区 (県かん・畑総), 慶座地下ダム・慶座
 地区 (畑総)
 ②宮古島コース 9:00~17:00 ただし, 20 名以上の
 場合のみ実施
 松原地区 (畑総), 地下ダム建設現場, 地下ダム資料
 館
 ※なお, 現地検討会の場所については変更の可能性が
 あります。

6. 参加費用

- 研修集会参加費 5,000 円程度
 現地検討会参加費 5,000 円程度 (うち昼食代 1,000 円)
 ※なお, 宮古島コースでは航空券代は含まれておりません
 で各自で手配願います。

7. 参加申込み

参加をご希望の方は, 参加申込書ファイル (本学会ホーム
 ページからダウンロードして下さい) に所要事項をもれなく記

入の上, 現地運営事務局まで E-mail に参加申込書ファイルを
 添付してお送り下さい。原則として団体ごとにまとめて申し
 込みいただきますようご協力をお願いいたします。なお第 2
 日の現地検討会につきましては, バスの都合上先着 100 名に
 達し次第, 締め切らせていただきます。あらかじめご了承下
 さい。

- (1) 申込期限 平成 24 年 7 月 27 日 (金)
 (2) 申込先
 農村計画研究部会平成 24 年度現地研修集会
 現地運営事務局
 〒990-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2
 沖縄県農林水産部村づくり計画課
 担当: 島袋 進・新垣美乃
 E-mail: aa045306@prf.okinawa.lg.jp
 ☎098-866-2263 FAX 098-869-0557

- (3) 参加費の納入
 参加申込票に記載している指定口座にお振り込み下さ
 い。なお振込手数料は参加者のご負担をお願いいたしま
 す。

- (4) 申込みの変更・取消し
 8 月 29 日 (水) までに現地運営事務局まで E-mail ま
 たは FAX にてお申し出下さい。それ以降の取消しについ
 ては, 参加費の返還ができませんので, あらかじめご了
 承下さい。

なお, 台風などの災害で現地研修集会にご参加いただ
 けない場合でも参加費の一部は返金できませんので, あ
 らかじめご了承下さい。

8. その他

詳細は, 本学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/bukaitop.htm>) をご覧下さい。

平成 24 年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



資源循環研究部会では, 農村における水循環やバイオマス利
 用に係る技術の発展および技術者・研究者等の学術交流を目
 的として, 研究発表会を開催することとしています。

今後の地域づくりには資源循環技術が欠かせないとの考えか
 ら, 「資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指して」と
 題して, 最新の調査・研究成果の発表を募ります。

是非, この機会をご活用いただきたく, 皆様のご応募をお待
 ちしています。

1. 開催日 (予定) 平成 24 年 11 月 8 日 (木) 10:00~17:00
 2. 会 場 東京都港区新橋周辺 (決定次第お知らせします。)
 3. 内 容

<テーマ>資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指し
 て

◎基調講演

◎研究発表

(農村における水やバイオマス資源等の循環および利活用
 に係る調査・研究の最新成果, 先駆的な取組み事例)

4. 研究発表の要領

- (1) 資格
 農業農村工学会資源循環研究部会員とします。
 (今回の発表・報告に併せた入会 (無料) ができます。)

- (2) 内容

◎総数 10 課題程度とします。

研究発表: 調査・研究の最新成果

論文作成: 研究発表会当日, 論文集を作成し配布しま
 す。

表彰：優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表彰します。

留意事項：論文については査読委員会にて査読を行い、場合によっては加筆修正をお願いする場合があります。

(3) 発表方法

個人発表とし、1人（共同研究の場合は口頭発表者）1課題とします。

発表を補助する映像機器として、パソコンおよびプロジェクターを用意します。

研究発表の発表時間は、20分程度/人（発表17分、質疑応答3分程度）の予定です。

5. 申込方法

(1) 発表申込み

① 申込用紙の提出をもって申込みとみなします。

申込用紙は研究部会ホームページよりダウンロードして下さい。

② 原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

す。

③ 締切は平成24年7月13日（金）とします。

④ なるべく多くの方に発表してもらう考えですが、応募総数、内容によってお断りする場合があります。応募者へは7月中旬頃に通知する予定です。

(2) 投稿

① 研究発表が決定した応募者には発表論文を作成していただきます。論文集原稿作成要領を研究部会ホームページに掲載していますのでご確認ください。

② 投稿締切は平成24年8月27日（月）とします。

(3) 申込み・問合せ先

農業農村工学会資源循環研究部会

事務局：（社）地域環境資源センター

集落排水部企画班（担当：小野寺，大瀧）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

☎03-3432-6282 FAX 03-3432-0743

E-mail：sigen@jarus.or.jp

研究部会ホームページ：<http://www.jarus.or.jp/sigen/>

農地保全研究部会第33回研究集会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成24年11月20日（火）

(2) 現地研修会 平成24年11月21日（水）

2. 場所

(1) 研究集会 宮城県管工業協同組合
宮城県庁隣接（仙台駅西口から約2km、徒歩20分）

(2) 現地研修会 宮城県仙台市周辺

3. 研究集会テーマ（予定）

東日本大震災に伴う津波被害・対策とその後（仮）

4. 問合せ先

〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町35-1

北里大学生物環境科学科環境計画学研究室 柿野

E-mail：kakino@vmas.kitasato-u.ac.jp

☎0176-23-4371（代）内線452 FAX 0176-23-8703

5. その他

詳細は本誌8月号に掲載予定